

平成 8 年 1 月 1 日
江別市生涯学習推進協議会
江別市高砂町 24 番地
教育委員会社会教育部参事(生涯学習担当)
☎011-381-1062

えぱつ

生涯学習

生涯学習情報紙 だより

日本と日本人を見つめなおす

国際色豊かな講師陣、連日盛況でおわる

生涯学習講座

江別市生涯学習推進協議会、江別市国際交流協会、野幌公民館主催の、生涯学習講座「日本及び日本人論」が10月28日(土)から12月2日(土)にわたって、野幌公民館において開催されました。

講師の一人エミリアさんは「言葉が通じない分、目と肌の感覚で」と、体験談をもとに語ってくれました。今日の私たちの生活は外国との交流なしには成り立たなくなっています。

アイデンティティ

諸外国の歴史、風俗、またコミュニケーションの方法などの学習と共に、私たちが日本人であることのアイデンティティの確立こそが、これからの国際化社会を生きていく

うえで重要なことではないでしょうか。①日本・ドイツのからくり恐竜たち(北海道医療大学教授 ヒルガー・コンラッド氏)、②今のポーランドと今の日本(NHK文化センター講師 三浦エミリア氏)、③

世界に日本人の心が息づいていることを指摘され、目のさめる思いでした。日本人として、もつと足許の中に日本の良さを発見してみようと思わせるにはおられません。



在日外国人問題で深い感銘をあたえた朴さん



5回連続講演には、いずれも多くの市民が参加しました。



山岸民千世さん

心に残る言葉

もう一

今回の「生涯学習講座」に出席し、大変に貴重な経験をすることができました。特に深く心に残ったのは次の二つでした。ポーランド人のエミリアさんが俳句を取り上げ、たった17文字の中に繰り広げられる

つは、在日外国人の問題を自身の体験から語られた朴さんのお話です。お話の中から、私たち日本人は自国の歴史をしっかり学ぶと同時に、朝鮮と日本の

かかわりの歴史を、正しく学び理解する努力が必要であることを痛感しました。江別に住む外国の方も250人に達し、これからも増加することが予想されます。異質な文化を持つ人たちが気持よく生活するために、今回のような講座などをもっと増やし、理解を深める地道な努力を続けることの大切さを、あらためて感じ入りました。

(江別市国際交流協会)

日々楽しむ私の生涯学習

書と共に30年



鈴木 義雄さん

の作成、印刷は私の仕事である。ノーズロでは格好が悪い。と平成六年四月の第十七号から地元扇町の商店や内科、小児科、歯科医院の広告を毎月入れた。

大塚扇町クラブが広報紙『かわら版』を発行してから三年になる。老人クラブ会員に会の動きを知らせて会員の増強とクラブの活性化をはかろうと平成四年の春、第一号を作り会員に配布した。

かわら版と私

字のエッセイを掲載して

最初は年三回の一頁建てを発行したが、行事が増えたので同年六月から二頁にし、十月からはカラー用紙を使ってコピー印刷した。かわら版の取材、編集、整理、ワープロによる版下

の作成、印刷は私の仕事である。ノーズロでは格好が悪い。と平成六年四月の第十七号から地元扇町の商店や内科、小児科、歯科医院の広告を毎月入れた。

の作成、印刷は私の仕事である。ノーズロでは格好が悪い。と平成六年四月の第十七号から地元扇町の商店や内科、小児科、歯科医院の広告を毎月入れた。

最近、グループ展、社中展、公募展等の作品づくりに追われっぱなしなのに、結構楽しんでる。退職もし、還暦も過ぎてくると、日々好日の心境なのだろうと思う。振り返って見ると、書道にかかわって三十年にもなる。公民館の書道教室を受講し



生涯学習講座の受講風景



加賀 一石さん

たのがきっかけで、様々なカベにぶつかりながら、今日まで続いている。仕事の余暇の趣味として始めたものの、特に才能とか、感性とか、生まれつきの能力が欠けている僕にとって、このカベはなかなか大変なもの

である。続けてこれたのは、書道が好きなこと、指導者仲間にも恵まれたこと、又、公民館の書道教室、サークル、同好会等の講師としてかかわって来たことも、大きなもののひとつかも知れない。文字の起源、文字の歴史、

生きました。当初は「えべつ人形」と講座名を付けていましたが、作品は人形だけでなく、動物、陶芸に類する物など、色々な形が出来てきましたので、名称を「粘土造形」と変更しました。「人形」では男性会員が入会してくれませんか。現在は手軽に作陶できるオープン粘土を素材として三十センチ位の大きさの作品を制作しております。が、将来「野幌粘土」を使用したいと、考えています。でもそうなりますと専用の工房が必要になりますし、窯も必要になります。レングの町、やきもの町である江別から「粘土造形」を広く発展させて行きたい。と、サークルメンバーは目を輝かせています。



肥田 貞子さん

粘土と悪戦苦闘の日々を過ごしている間に、陶芸とは別の粘土造形の分野を手がけるようになりました。彫刻用支柱に粘土を盛り付け彫刻刀で像を彫り上げ、焼成してから色づけをしてブロンズ像に作品を完成します。

野幌公民館が新築オープンした昭和五十七年に「この講座は野幌公民館だけにしかない講座にしたい。」と、当時の館長に要請されてサークルが誕

れませんか。現在は手軽に作陶できるオープン粘土を素材として三十センチ位の大きさの作品を制作しております。が、将来「野幌粘土」を使用したいと、考えています。でもそうなりますと専用の工房が必要になりますし、窯も必要になります。レングの町、やきもの町である江別から「粘土造形」を広く発展させて行きたい。と、サークルメンバーは目を輝かせています。



三浦エミリアさん(生涯学習講座)

地場産業である窯業と深いかわりの中で生活をしているうちに、粘土は作る人の考えでどんな形にでも成型できる事に興味を持ち、陶芸を志して二十数年前、道工業試験場の研修生になりました。

野幌公民館が新築オープンした昭和五十七年に「この講座は野幌公民館だけにしかない講座にしたい。」と、当時の館長に要請されてサークルが誕

れませんか。現在は手軽に作陶できるオープン粘土を素材として三十センチ位の大きさの作品を制作しております。が、将来「野幌粘土」を使用したいと、考えています。でもそうなりますと専用の工房が必要になりますし、窯も必要になります。レングの町、やきもの町である江別から「粘土造形」を広く発展させて行きたい。と、サークルメンバーは目を輝かせています。

れませんか。現在は手軽に作陶できるオープン粘土を素材として三十センチ位の大きさの作品を制作しております。が、将来「野幌粘土」を使用したいと、考えています。でもそうなりますと専用の工房が必要になりますし、窯も必要になります。レングの町、やきもの町である江別から「粘土造形」を広く発展させて行きたい。と、サークルメンバーは目を輝かせています。

やさしい暮らし 江別消費者協会

中島好枝（協会事務局長）

昭和四十四年江別市婦人大会において、消費生活について話し合われたのが消費者協会設立の始めでした。

当時は社会情勢の変化、物価の上昇や食品添加物入りの食べ物や次々と出廻り、それが一体何なのかも知らされずに生活するといった時代でした。

特に命を守り育てる主婦としては、小さな事でも知りたいたいの熱意が行政を動かす早業も、その年の四月に会員二二三

活の向上を目ざして、さまざまな協会活動をつづけてまいりました。

近年は悪質商法による被害、外国からどんどん入って来る食品、使い捨て時代から、ごみ減量への取り組み等々問題が山積しております。やっとなりた製造物責任法も消費者の方をしっかりとみているの

消費者大会、消費者まつり等全市民的な行事も

☆ 食品安全からゴミ対策まで ☆

現在協会会員は四二〇名、活動として食品の安全性の勉強会、低農薬米の産直、牛乳乳製品を使った料理講習、環境にやさしくらしの為に身の廻りのゴミ対策をどの様に

さらに広がり、たくさんの方々に会員になっていただきたくと念願しております。

連絡先 市商業振興課内 381-1026



毎年、消費生活展を開催、暮らしの知恵の普及につとめています。

3月刊行予定
学習ガイドブック作成中
教育委員会社会教育部

生涯学習の意義や必要性が唱えられて久しくなっていますが、「実際、どんなことが行われているのかわからない」、「学びたいことはあるのだがどうしたらいいかわからない」そんな方も見受けられるようです。

そこで、教育委員会では、ここ江別で「どんなことが行われているのか」、「どんな指導者がいるのか」を中心に芸術・文化、スポーツ、家庭生活などなど、幅広い分野にわたる情報収集を行ってきました。只今、その情報をもとに3月発刊にむけて作成中です。できあがったガイドブックは各公民館、自治会にお届けできればと考えております。

これからはじめようという人、すでにやっていることをレベルアップしたい人、ぜひご覧ください。おたのしみ。

課題は自主財源の確保など

組織検討部会で活発な議論

去る10月30日、江別市生涯学習推進協議会・組織運営検討部会（以下「組織部会」）が設置され、本会の組織体制、会費の徴収及び財源の確保などにつき、検討を開始しました。

組織部会は、11月24日滝川市の勸滝川市生涯学習振興会を研修視察、12月6日に第2回部会を開き、当面する本会運営の根幹となる諸問題について検討を重ねております。

組織部会の検討は、今後とも重ねられ、2月上旬頃をめどに一定の方向性が出されることになりそうです。その後、理事等に報告されその扱いについて決定されることになり

また、会費の徴収及び財源の確保については、本会の設立の経過などからいきなり

なお、組織部会の委員は次のとおり。
会長・関根正一、副会長・山田義弘、委員・佐賀井勇、大角恭子、春日基。

会員の募集

江別市生涯学習推進協議会では、加入団体を募集しております。江別における生涯学習振興には、市内各団体の皆様のお力添えが欠かせません。詳細につきましては下記までお問い合わせください。

〈事務局〉

江別市教育委員会社会教育部 参事（生涯学習担当）
☎381-1062

お花を楽しみましょう

〈池坊いけ花蘭香会〉

はじめての方も、なお深く研究したい方も大歓迎。活動は野幌鉄南センター（第1・3火曜日）。若葉自治会館（第2火曜日）。専信（毎週水曜日）。くわしくは鉢呂まで。☎383-1054。

〈池坊溪月会〉

お花を気軽に楽しみませんか。活動は土曜日（月3回程度）の午後1時から野幌公民館で。くわしくは塚本まで、☎384-0690 へどうぞ。



市民主体の学習事業の充実が求められている

また、会費の徴収及び財源の確保については、本会の設立の経過などからいきなり

なお、組織部会の委員は次のとおり。
会長・関根正一、副会長・山田義弘、委員・佐賀井勇、大角恭子、春日基。



市内学習ポイント一回目は「江別市郷土資料館」です。ここ資料館は、平成3年4月の開館から五年目を迎えました。先人の残した文化遺産を時代をこえて保存し、未来の人々に引き継ぐことをモットーとして様々な事業が行われています。

常設の展示室では、大昔の人々のくらしから屯田兵の入植をへて、昭和までの江別市の歴史を展示しています。また、その他にも郷土史講座や

史跡見学会、土器づくり、遺跡体験発掘など楽しみながら学習できるイベントもたくさん用意されています。

時には、太古の歴史に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

〈所在地〉
緑町西一丁目三八
電話 385 6466
※月曜休館
入館料 大人1200 00



江別市郷土資料館位置図

前号でお知らせした、第七回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア95北海道」が、10月2日、盛況のうちに閉幕しました。

アクセス・サップロをメイン会場として、札幌市の計八六会場では、講演、フォーラム、歌や演劇などの発表など二四三ものイベントが開催されました。参加者数は当初の目標であった四〇万人をはるかに越える七六万八千人を数え、全道的な学習意欲の高まりが感じられました。

江別も出展した見本市、また、屋外の体験広場には道内各地の市町村や企業、サークルなどが集まり、バラエティにとんだ展示、催しが行われ



江別のコーナーも好評でした

私の宝物 手作りの自称書齋

春日 基
(劇団「川」主宰)



男のロマンとして一生に一度は持ち家を建て、その時に自分だけのスペースとして書齋を考えるらしい。しかし、所詮は夢。作って見たものいずれば子供にとられあげく納戸となり、男のロマンは壊れて行くのが通例らしい。

近所でも一番古くなってしまった我が家。と言っても百年、二百年の由緒止しき家ではない。安普請のただのボロ家である。そろそ

父は雑学の上、愛書家であった。文学書からあらゆる専門書、趣味の本と幅広く本を集めて、おおよそ五千冊程度を蔵書していた。他に引き取り手のないそれらの書籍は、

父は雑学の上、愛書家であった。文学書からあらゆる専門書、趣味の本と幅広く本を集めて、おおよそ五千冊程度を蔵書していた。他に引き取り手のないそれらの書籍は、

「書齋」である。農家ならではの二十畳程度の私だけのスペースである。私はここが気に入っている。ここから数々の私の拙作が世に出たのである。

古材を集め手作りで部屋らしい物を作った。人に言わせればただの物置であるが、自称「書齋」である。農家ならではの二十畳程度の私だけのスペースである。私はここが気に入っている。ここから数々の私の拙作が世に出たのである。

ろ男のロマンをと思うのだが、家業の農業の経済状況では到底許されない。

この家に十五年程前に叔父の遺品の書籍が舞い込んで来た。小学校の教員であった叔父は、

当初は母屋の一室に自分の蔵書に合わせて置いたのだが、本の重さで家が傾き始めたのである。加えて子供たちの部屋も必要となって来た。そこで一計を案じ、納戸の一角を仕切り、書籍を置くことにした。

生涯学習豆知識

「生涯学習」と「生涯教育」

人々が生涯にわたり、生活や職業、社会的活動、趣味などに関する能力を向上させるために主体的に学び続けることを「生涯学習」といい、一方、すべての人が生涯にわたって、それぞれ必要な学習を進めていくことができるように、その条件を開発、整備、調整していくことを「生涯教育」といいます。

しかし、最近では「教育」というより「学習」といったほうが学習者の意志を尊重し、学習者の視点に立っているということから「生涯教育」も含めて、「生涯学習」と使われることが多くなりました。



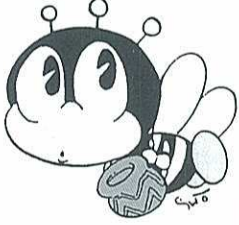
おねがい

“えべつ生涯学習だより”は皆様からの生の声をお待ちしています。生涯学習そのものについてのお考え、日頃の学習活動を通して得たもの、やっぴりよかったと感じることなど、屈託のないお話を聞かせください。

また、その他紙面に関するご意見・ご感想などなんでも遠慮なく事務局あてにご投稿ください。

知りたいこと見つけられましたか

全国フェステ七七万の人びとで賑う



前号でお知らせした、第七回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア95北海道」が、10月2日、盛況のうちに閉幕しました。

アクセス・サップロをメイン会場として、札幌市の計八六会場では、講演、フォーラム、歌や演劇などの発表など二四三ものイベントが開催されました。参加者数は当初の目標であった四〇万人をはるかに越える七六万八千人を数え、全道的な学習意欲の高まりが感じられました。

江別も出展した見本市、また、屋外の体験広場には道内各地の市町村や企業、サークルなどが集まり、バラエティにとんだ展示、催しが行われ

10月2日 閉幕